



学校便り 琢磨

令和6年度 第8号 R6.6.27 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える！

敬称は略します。おめでとうございます。表彰は次回の全校集会で行います。

【第2回さぬきっ子陸上カーニバル大会 6/23】

共通男子走幅跳	1位	4m28	6年	吉田 貫汰
共通男子走高跳	2位	1m31	6年	吉田 貫汰
〃	3位	1m28	6年	吉田 悠伸
5年女子 100m	6位	15秒13	5年	磯崎 唯乃
5年男子 100m	7位	14秒82	5年	資延 椿希



熱中症予防対策について（再掲）

前回の学校便りでお知らせいたしました「熱中症予防対策」を来週月曜日（7月1日）から実施いたします。お子様とも相談の上、体調等に合わせた対応をよろしくお願いいたします。

- ① 通学用の雨傘を、日傘代わりに使って登下校してもよい。（日傘の使用も可）
- ② 体操服での登下校、体育以外の授業を受けてもよい。（登下校の帽子は通学帽）
- ③ カッターシャツ、ポロシャツ、体操服の代わりに、白色（ワンポイント可）の T シャツを着用してもよい。いずれの場合も通学用に着用する場合は、名札は付けること。（体操服は不要）
- ④ 体温の上昇を防ぐために、上着をズボン（体育のハーフパンツ）の外に出してもよい。
- ⑤ 着替えやタオルを持参してもよい。
- ⑥ 水筒には、お茶、お水（スポーツドリンクも可：できれば薄めたもの）を十分な量用意する。
- ⑦ 登下校時に限り、首を冷やす物（ネッククーラー等）を使用してもよい。

「昼休み芸能・自慢大会」が開催されました

児童会主催の第1回～3回昼休み芸能・自慢大会は、6月6日（木）、13日（木）、20日（木）の昼休みに体育館で開催され、23組、80人の出場者が、歌やダンス、マジック、なわとび等の得意なことや、自慢したいこと、皆さんに見てもらいたいことを披露してくれました。

詫間幼稚園、詫間保育所の子どもたちや保護者の皆様も応援に来てくださいました。2学期、3学期も開催する予定で、出場者は、また募集します。お楽しみに！



社会福祉体験（6年生）

6月25日（火）、26日（水）に、6年生は、三豊市社会福祉協議会の皆様をお招きし「認知症サポーター養成講座」と「高齢者疑似体験」を行いました。認知症や、高齢者の体の機能について詳しく知り、そのサポートの仕方を学ぶことができました。



国際交流員来校（3年生）

6月25日（火）。3年生は、県の国際交流員であるコリーン・マキーンさんをお招きし、国際交流の出前授業を行いました。

クイズやゲームを通して、日本の学校とイギリスの学校の共通点や違いなどを楽しく学ぶことができました。



私の勤務した学校 その3

(豊中町立比地大小学校 平成6年4月～平成11年3月)

高松市の町のご真ん中の児童数が700～800人くらいの大きな小学校での教員生活も4年間で過ぎました。その頃、私には、もう三豊に帰る気持ちは全く無くなっていました。一生、この高松市で教員をやろうと思っていたのです。結婚もしましたし、妻も高松市の小学校の教員をしていました。そして仕事に対して自信とやりがいを感じ始めていました。やっと私は自分の居場所を見つけたように感じていました。

しかし、平成6年の3月。校長室に呼ばれ「あなたは、三豊郡の学校に転勤することになりました。」と校長先生から告げられたのです。その時は、かなり戸惑いました。そして、転勤する学校は、児童数100人くらいの比地大小学校だと聞きました。転勤は命令ですので仕方ありません。私は、高松市に住みながら比地大小学校に毎日通うことになったのです。

実は、その4年前、自ら高松市への転勤を希望したのには理由がありました。最初の赴任校の大見小学校では、国語の研究会に所属していたのですが、同年代の仲間はずいぶん活躍していく中で、私は何をやってももうまくいかず、完全にやる気を失っていたのです。このままここにいたら自分は潰れてしまうような気がして、誰も知らない土地に行って一からやり直したいと思っていたのです。そんな「あがきにも似た状態」で私は高松市の学校に転勤することができ、そして、何とか自信とやりがいをもてるようになってきたのです。ですから、また三豊に戻ることに對しては「不安」しかありませんでした。

比地大小学校に初めて挨拶にうかがった時、校長先生から「あなたに研究主任をしていただきたい。来年度、本校は国語の研究会があります。」と言われたのです。「私がですか？」と聞き返す私に、校長先生は、「そうです。あなたに本校の国語の研究を任せます。あなたは30歳。三豊・観音寺の小学校で一番若い研究主任ですよ。あなたの思うようにやってください。」と言われました。比地大小学校は、当時、校長・教頭を合わせても教員数が10名くらいの学校でした。その中で、国語の専門は私一人でしたので、こんなことになってしまったのでしょうか。それでも、この一言で、私は一気に「自ら逃げた三豊の地に居場所を見つけた気持ち」になったのです。

比地大小学校では、まず、3年生の担任をさせていただきました。そして、国語では、物語を劇にしたりテレビドラマにしたりして、とにかく「楽しいワクワクする国語の授業」を目指しました。この頃は、土曜日にも授業がありましたので、クラスの子どもたちにお弁当を持って来させて、お昼から近くの森や神社に行き、国語の教科書に掲載されている物語を、脚本を作って演じ、ビデオカメラを持って行って撮影しました。もちろん「こんなことをして国語の力が身につくのか!」とお叱りを受けたことも度々ありました。しかし、私は、この研究が楽しくて仕方ありませんでしたし、最初はこの研究に反対していた同僚の教員が、だんだんと理解を示してくれるようになり、最後は「真鍋先生の考えを100%応援します。」とまで言ってくださるようになりました。私生活でも、1年後には、妻とともに実家である高瀬町に引っ越してきました。

国語の研究会が終わっても、私はやる気を失うことはありませんでした。音楽発表会にも出ました。本格的な合奏や合唱はできませんでしたが、「楽しく歌ったり演奏したりすること」だけを目指し、自分たちが作ったオリジナル曲を発表しました。何とピアノは私が弾きました。

2年間持ち上がって担任を終える4年生の3月には、子どもたちと料理を作って、夕方、学校の会議室を使わせてもらって、保護者の皆様を招待してお別れパーティーをしました。子どもたちがチョコフォンデュをして、会議室のカーテンがチョコレートだらけになってしまいました。保護者の方が、そのカーテンを持って帰って、きれいに洗濯して下さったという出来事も・・・。

比地大小学校では、3年、4年、3年、4年、4年（うち3か月はアメリカに派遣）と5年間中学年ばかりを担当させていただきました。その間に、私は、三豊・観音寺の国語の研究会のリーダーにもなっていました。分からないものですね。不思議なものですね。あれほど嫌になって逃げた国語の研究会を、いつの間にか、自分が中心で運営することになったのですから・・・。